

個別事業説明書【PR版】

中予地方局



1 次世代かんきつ整備園強化事業費（中予）

中予地区で基盤整備が進められているかんきつ園地を次世代かんきつ整備園のモデルとして、土壌改善による地力向上やスマート農機の導入・普及を促進し、高品質かんきつの生産拡大につなげる。

お問い合わせ先
中予地方局農林水産振興部
農業振興課
(089-909-8761)

指標

指標	施策	17 農林水産業の生産振興 KGI 農業産出額	現状値	1,232億円 (R4年)
	細施策	17-4 農業の生産振興 KGI 主な農産物の生産量（各振興計画に記載のある主要品目）	現状値	329千t (R5年度)
			目標値	1,200億円 (R8年)
			目標値	338千t (R8年度)

事業イメージ

KPI	モデル地区の腐植含有率 (優良園地の値以上を目指す R7年度0.4% R8年度0.7%)	現状値	0.1% (R6年度)
		目標値	0.7% (R8年度)

【現状と課題】中予では陸地部や島しょ部地域の計8地区約60haでかんきつ園地の基盤整備が進んでおり、県内で最も広く、地質が異なる地帯にまたがっている。生産者の園地整備への熱意は高いが、整備園地の地力が乏しく、想定を超える豪雨により浸食の発生する事例がみられるとともに、園地管理の省力化が求められている。

課題

地力不足による苗木の生育不良	ゲリラ豪雨による浸食の発生	省力化による生産性の向上	ほ場の気象データが収集できない	目指すべき姿
			(気象要素) 降水量 気温 風速 照度 湿度など	

対策

土壌改善・保全、スマート農機実演、気象モニタリング
土づくりは営農初期の実施が効果的
※優良園では園地造成後3年間で、草生栽培により腐植含有率が0.1%から1.1%に増加した

取組

①草生栽培等による土づくりの推進	②スマート農機実演会の開催	③気象モニタリングシステムの設置	

他地区へ波及

次世代かんきつ整備園の強化（将来）かんきつの生産量増加

★腐植含有率：
土壌肥沃度を示す一つの基準、土壌に含まれる有機物の割合。数値の増加により土壌が豊かとなり、樹の根張りが良くなり、樹体の生育が良好となる

★草生栽培：
下草を利用して地表面を保護し、園地の地力増進と浸食を防止する栽培管理

事業概要

- 1 土壌改善・保全に向けた土づくりの推進（R7～9年度） 964千円**
【モデル地区4カ所 下難波、浅海原、由良、砥部】
(1) 緑肥作物を用いた草生栽培の実証
・草種と地力増進、浸食防止を実証し、指針を作成
・栽培講習会の開催
(2) 有効性が期待される未利用資材の活用と循環型農業の推進
・しいたけ廃菌床、「くらげチップ」、竹炭等の農地施用による若木育成
- 2 スマート農業機械の利用による省力化の推進（R7～9年度） 625千円**
(1) スマート農機実演会の開催
・ロボット草刈り機導入による除草作業の省力化
・電動運搬台車の導入による収穫等運搬作業の省力化
・基盤整備地における先端技術導入に対する理解促進
(2) 気象モニタリングシステムによる気象把握と高品質安定生産に向けたデータ収集
・かん水や施肥のタイミング及び量を最適化
- 3 かんきつ園地整備の支援 378千円**
(1) ワーキングチーム会の開催（年3回）（R7～9年度）
・構成員：生産者、JA、市町、愛媛大学、県
・検討内容：栽培品目、施設導入、土壌保全対策など
(2) 情報収集活動（R7～9年度）
・基盤整備の事例調査（長崎県）
・スマート農機等の開発動向や要望調査（農研機構）
(3) 草生栽培マニュアルの作成（R9年度）
・基盤整備園における草生栽培マニュアル作成



2 外来水草発生抑制事業費（中予）

令和7年度当初予算（案）
予算額 1,500千円

松前町内の河川で毎年大量発生する外来水草のホテイアオイやボタンウキクサに対し、現在、人力による撤去以外効果的な駆除防止策がないため、回収・処分に多くの費用を要するなど、河川維持予算を圧迫しているとともに、河川管理上の支障も生じている。このため、河川の水質浄化により水草の発生を抑制し、水草処分費用の低減及び河川施設機能の低下防止を図るため、木炭を利用した水質浄化の実証実験を行う。

お問い合わせ先
中予地方局建設部
河川砂防課
(089-909-8774)

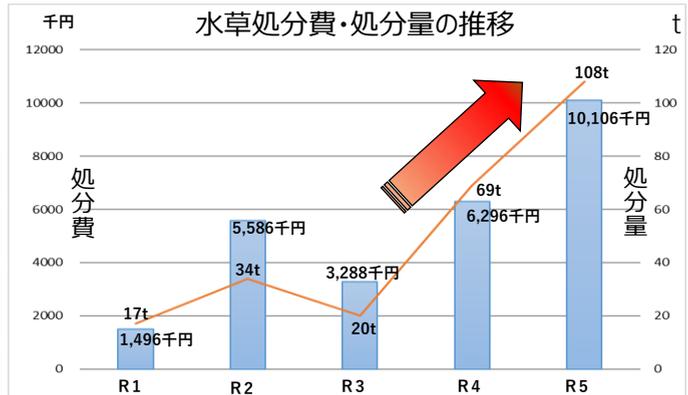
指標	施策	26 公共施設の適切なマネジメント KGI 県の管理する公共施設等の管理不備・老朽化に起因する重大事故発生件数	現状値	0件（R5年度）
	細施策	26-5 河川・ダム of 適正な管理による水災害の抑止 KGI 河川・ダム施設稼働率	現状値	100%（R5年度）
			目標値	0件（R8年度）
			目標値	100%（R8年度）

事業イメージ	KPI 実証区間における外来水草被覆率	現状値	100%（R6.10時点）
		目標値	0%（R9年度）

事業概要

外来水草発生抑制事業費 1,500千円

- 【現状】**
- 松前町内の河川における外来水草大量発生**
- 河川の流下阻害
 - 枯死による水質悪化
 - 水門等の管理施設への影響
 - 港湾への流下による船舶航行、漁業への影響
 - 大量発生による水草処分コスト増



- 1 調査・計画【148千円】**
 - 実施にあたり事前に専門家（学識経験者）の意見を聞きながら、発生場所の調査、効果的な発生抑制策を計画
 - 実施前後において水質調査を行い、水質浄化効果の確認を行う
- 2 予防対策【1,352千円】**

効果的な繁殖抑制対策を実証試験

 - 木炭の水質浄化効果により水草繁茂の抑制対策を実施
 - 発生源を特定して防護ネットを設置し拡散防止対策を実施
 - 繁殖初期の段階で撤去を行い、処分量の低減を図る
- 3 地元連携【ゼロ予算】**
 - 地元住民からの連絡（発生エリアや時期、状況）体制を構築
 - 松前町とも連携し、除去した外来水草を堆肥化し有効活用
 - 町民および河川利用者に対し、河川環境の改善を啓発する活動への参加を呼びかけ、外来水草対策への理解の促進・PRを図り、将来的にはため池等のアオコ対策に展開

